

るといふことが人望の源であります。この様に正直の性格は國民を善良ならしめるのみならず。やがて其の子の幸福であるから、父母は側に居て何事もよく知つて居る子に向つて、これは誰にもいふではありませんよ、など、虚言を教へてはなりません。唯何事にも公明正大の態度を以て之に教へるがよろしい。一體家庭には一の信仰がなくはなりません。グラッド將軍の偉大なのは家庭に於ける信仰の感化であります。然るに家庭に信

幼兒情況調査

仰なく獨り學校で、神佛は敬はなければなりません、など、申して見たり、又親が怠りものでありながら其子に働けといふたりした位では逆も高尚な人格の子は出来ません。何れにしても家庭で眞面目の生活を致しませねば子の爲にはなりません。要するに從來の親の教育と思ふて居ることはその實非教育的のものが多く、されば、今日の家庭教育を改善することが兒童研究の急務であります。(文責在記者)

保育上の参考として毎年新入幼兒に對して調査せる幼兒生活状態の一部を掲げて御参考に供します。

一、往復に要する時間と其仕方

學齡に充たない幼兒を餘り遠方から幼稚園に通

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園主事

安井哲

はせるといふとに就ては、考慮すべき點が少くありません。即ち之は睡眠の時間とか食事の時間とか、又は疲勞の問題等に關係を有つ者であります。當園二部に於ては、主として近所の幼兒を收容して居りますが、一部に在つては、特別に住所の區域

を定めませんため、遠方から通つて来る者もあり
ますので、題目の様な取調を致すのでありますが、
(欄内ノ数字ハ百分率ヲ示ス)

本年三月の現在幼児數一部凡百十二名、二部凡六
十名に就ての調査の結果は左の通りであります。

往		往復各ニ關スル時間										
組別	片道ノ時間 二時間ノ時間	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
		五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第一組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第二組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第一組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第二組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第一組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第二組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第一組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下
第二組	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下	五分以下

調 査

復ノ仕方

電車	徒歩	人力車	片道電車	片道徒歩	片道人力車	片道電車
五〇	四二	三	三	三	三	三
五八	一〇〇	三	三	三	三	三
五四	三七	三	三	三	三	三
	一〇〇	三	三	三	三	三
	二四	五	一	一	一	一
	一〇〇					

今此二表を互に参照しあつて観ますと、第一部の幼児は前申した如く住所の區域を限りませんが、遠方から通ふものが多く、最多數幼児の往復各に要する時間が廿分以上卅分以下で（一ノ組だけは五十分以上一時間以下の者もありますが）幼兒の過半數は電車で通ひますが、徒歩するもの決して少くはありません。而も年齢の増すに従つて其百分率の増加することは最も自然でありませう。又人力車を用ふる者は自宅に常用の者を有つて居るか、或は送り迎ひの者を附けることが不便なためであります。

第二部の幼兒は園の附近に住居してゐるために

最多數の幼兒は十分以上二十分以下（三ノ組だけは廿分以上卅分以下の者もありますが）の時間を往復に費します。そして中には三ノ組即ち最幼年者で四十分以上五十分以下の時間を費すに關はず、全部徒歩で通園するといふのは其生活狀態が第一部の幼兒と異つて居ることを示して居ます。

二、間食

吾國の或家庭では幼兒に時を定めず間食を與へる習慣があつて、之れがために胃腸を害することが少くありません。かゝる幼兒は幼稚園に來るために、自然間食の度數を減するやうになり、従つて健康の度を増進することもあります。そこで此

點に就て調査を致しました結果は左の通りであります。

(欄内の數字ハ百分率ヲ示ス)

關ニ食間										
零回	日		平					零回		
	最多數幼 兒ノ用テ ル回數	最少 回數	最多 回數	四回	三回	二回	一回		第二部	一ノ組
一	一回	一回	二回			四	九六		第二部	一ノ組
一	一回	一回	三回		一三	二七	六〇		第二部	二ノ組
二	一回	零回	四回	二		二六	六八	二	第二部	三ノ組
一	二回	一回	三回		二三	五四	二三		第二部	三ノ組
一	一回	零回	三回		二	一六	七三	一	第二部	三ノ組
一	二回及三回	一回	三回		三六	三六	二八		第二部	三ノ組

スルニ依ル調査											
最多數幼 兒ノ用テ ル回數	最少 回數	最多 回數	日								
			七回	六回	五回	四回	三回	二回	一回		
二回	一回	三回					四	七八	一九		
二回	二回	五回			七	七	二七	六〇			
二回	零回	七回	二			二	一七	四九	二六		
四回	二回	六回		八	二三	三一	二三	一五			
二回	一回	五回			三	一〇	六	六八	一二		
三回及五回	一回	五回			三一	一五	三一	一五	八		

間食の度數は幼兒の年齢と家庭生活の狀態とに依つて差違がありますが、第一部幼兒の如く中流以上の家庭に育つた者は、其過半數は比較的規律的な生活をなす者で、(少くとも間食に就ては)其最少數の一部が所謂我儘生活をなして居るもので

あります。そこで間食の度数に就て調べて見ましても、最多數幼児は平日に一回、休日に於て二回でありまして、其食物の種類と分量とを問題外として見るときには、適當の度数であると考へられます。然るに最も少數の者は、平日四回、休日七回といふやうな多くの度数間食を致すのでありますが、是等は入園前に於てかくの如き習慣を得て居るので、入園後に於ても之れを脱することが出来ず、起床前、就眠前に於て最初と最後の間食をなすといふほどであります。然るに此の如き調査の結果に依つて、母親は其子と他の一般幼児との生活状態を比較して、自然其教育に注意するやうになり、次第に善良なる習慣に導き入れんと努めらるる方もありますのは實に喜ばしいことでもあります。現に平日四回、休日七回の間食をして居た幼児は、此調査と共に、母親と保姆と幼児とが相談の上で其度数を減じ、平日も休日も二回づつに改めました。

又二部幼児の父兄は、商業や工業の忙しい職業に従事する者が多く、住居も餘り廣くないために、子供は狭い人道で遊ばねばならず、且又目前に多くの食料品を賣買する店があるので、時とすると是等の物を自身に買ひたくなることもあるといふやうな境遇に居るので、第一部に比すれば、最多數幼児の間食をなす回数が二ノ組三ノ組に於て殆ど二倍に達して居ます。

三 男。女。使。用。人。數。及。躰。を。する。人。

召使の數と種類と、幼児と彼等との關係が幼児の教育に少からぬ關係を有ちますので、是等の點に就いて取調べましたが、試に其數を擧げて見れば左の通りであります。勿論職業のために多數の使用人を召使ふやうな場合には之れを省き、家庭に於て用ふる者のみを擧げました。

(欄内ノ數字ハ百分率ヲ示ス)

男 女 使 用 人												
十一人	十人	九人	八人	七人	六人	五人	四人	三人	二人	一人	零	使用人數
												部別
												一部
三	二	三	七	八	五	一一	六	二一	一七	一四	一	二部
			二		四	二	二	六	一九	一三	五四	

(欄内ノ數字ハ百分率ヲ示ス)

主 ト シ テ 幼 兒 ノ											
母及祖母	母及祖父	母及祖母	祖父	祖母	父母	母					
		三		三	一一	七六	一部	一ノ組			
		七	七	七	一四	六四	二部	二ノ組			
五				八	二四	五二	一部	二ノ組			
					一二	八八	二部	二ノ組			
三		三一	三	五	五	八七	一部	三ノ組			
		五		八	八	六九	二部	三ノ組			

數				
使用スル數	最多數家庭ノ	最少數	最多數	十二人
三人		一人	十二人	二
○			八人	
○				

其他	純粹ニ依ル者 父母ニ依ル者	女中	家事監督	家庭教師	人			父母及姉
					母及附添	叔祖父母及	母及兄	
一四	八六	三	三	三	—	—	—	
二二	七九	—	—	—	—	—	—	
二四	七六	—	—	—	五	三	三	
—	一〇〇	—	—	—	—	—	—	
二四	七六	三	三	—	三	—	三	
二三	七七	—	—	—	—	—	—	

此表に依つて見ますと、第一部のやうに社會の上、及上の部に位する家庭に於て、最多數が使

「エミール」の幼兒教育の感懷 (四)

用する召使の數は三人で、最多きは十二人、第二部に在つては、最多數の家庭は召使を有たぬのであります。而して多數の召使を用ひて居る家でも、其多數は一人の幼兒に對して誰か定まつた一人の召使を附けてあつて、之れに主として衣服の着脱とか食事の世話とか送り迎ひ等をなさしめるのであります。併しかくの如き附添人が幼兒に與ふる感化は中々少くありませんので。本園では受持の保姆が日々起る特別な出來事に就て、是等の人々に注意を與ふるのみならず、毎月一回主事から幼兒の取扱其他に就て話をするになつて居ます。又幼兒の躰に對しては第一部第二部共母親及兩親が主として之れに當つて居るのは實に喜ばしいこととであります。